

《公共事業の効果等について》

○資料3-1

中山間地域総合整備事業（伊万里西部地区）

【農地整備課】

○資料3-2

予防治山事業（一本杉一）

【森林整備課】

○資料3-3

砂防施設等整備交付金（通常砂防）事業（岩屋下川第二）

【河川砂防課】

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

- 事業名： 中山間地域総合整備事業
- 路線名又は箇所名： 伊万里西部地区
- 事業の概要
- 工 期：平成19年度～平成28年度（10ヶ年）
- 事業費：1,302,017千円

事業内容：	農業生産基盤整備	生活環境基盤整備
	農業用排水 L=8,766m	農業集落道 L=2,701m
	農道整備 L= 380m	農業集落排水 L= 565m
	ほ場整備 A= 5.8ha	
	暗渠排水 A= 17.4ha	
	湧水処理 L=2,467m	

【公共事業の効果等】

- 農業用排水路、ほ場整備等により営農の効率化や維持管理の省力化が図られたことはもとより、棚田でのイベントが開催されるなど、中山間地域の活性化に繋がったことから事業の直接的効果が発現。
- 用水の安定供給及び、速やかな排水が図られたことで、裏作や高収益作物の作付けが増加。

【事業実施前の状況等】

- 国営事業、鉱害復旧事業等により基盤整備が行われているが、中山間地域であるため、農地が狭小、不整形な農地のままとっている。
- 農業用水は、溪流やため池に依存し、井堰・用排水路の老朽化が著しく、用水確保や施設の維持管理に苦慮している。

【事業実施後の状況や県民の声など】

(事業実施後の状況)

- 農業用排水路、ほ場整備等により営農の効率化や維持管理の省力化が図られたことから農用地が維持・保全され直接的な効果を発現している。
- 暗渠排水整備により乾田化が図られたことで、裏作や高収益作物の作付けが増加している。

(県民の声)

- 用排水路整備により、土水路や石積み崩壊による水路への土砂堆積が大幅に減少した。
- 生活基盤整備により、川内野棚田の知名度が向上したことで農産物の販売促進、交流イベント等を通じて地域の活性化が図られた。

(様式4)

公共事業に係る効果等について

中山間地域総合整備事業

伊万里西部地区

(農地整備課)

1. 事業概要

農業の生産条件等が不利な中山間地域において、
農業生産基盤の整備と農村生活環境等の整備を総合的に行い、農業・農村の活性化を図る。

地区平面図



- 事業名：中山間地域総合整備事業
- 地区名：伊万里西部地区
- 工期：平成19年度～平成28年度
- 事業費：1,302,017千円
- 負担割合：
 - 農業生産基盤整備
国55%、県30%、地元（市・農家）15%
 - 農村生活環境整備
国55%、県25%、地元（市・農家）20%
- 受益面積：193.3ha
- 関係市町：伊万里市

- 事業内容：農業生産基盤整備

農業用排水	L=8,766m
農道整備	L= 380m
ほ場整備	A= 5.8ha
暗渠排水	A= 17.4ha
湧水処理	L=2,467m
- 農村生活環境整備

集落道路	L=2,701m
集落水路	L= 565m

2. 事業の背景・目的

- 背景

本地区は、伊万里市の西部に位置し、国見山麓と伊万里湾に挟まれた地域である。国道付近の平坦地から国見山麓にかけては、地形勾配が大きく、棚田が広がっている。

これまで、国営事業、鉱害復旧事業等により基盤整備が行われているが、中山間地域においては、狭小・不整形な農地であった。

また、農業用水は、溪流やため池に依存し、井堰、用排水路の老朽化が著しく、用水確保や施設の維持管理に苦慮していた。

- 目的

農業の生産条件等が不利な中山間地域において、農業生産基盤（農地や農業用水利施設）の整備と農村生活環境（集落の道路や水路など）の整備を総合的に行い、農業生産性の向上と合わせ農村生活環境の改善を図ることで、農業・農村の活性化に資するものである。

3-1. 事業内容(農業生産基盤の整備)

○農道を整備することによって、小型機械や軽トラックの利用を可能とし、走行経費の節減、営農条件の改善、維持管理の負担軽減、安全性の向上を図る。

整備前



ふるこちゅうぶ
古子中部農道

整備後



○圃場整備を行うことによって、大型機械の導入を可能とし、農作業の効率化、畑作振興、維持管理の負担軽減、低コスト化を図る。

整備前



まるこば
丸古場ほ場整備

整備後



3-2. 事業内容(農村生活環境の整備)

○農業集落道を整備することによって、道路の拡幅や待避所の設置を可能とし、通行の安全性確保、公共性の向上(緊急車両)、通作や集出荷の利便性の向上を図る。

整備前



こうち・なかこば
川内・中古場集落道

整備後



○農業集落排水の整備を行うことによって、土水路や空石積の水路を改修し、大雨時の災害防止、集落の安全確保、維持管理の負担軽減を図る。

整備前



ぎょうにんだ
形人田集落水路

整備後

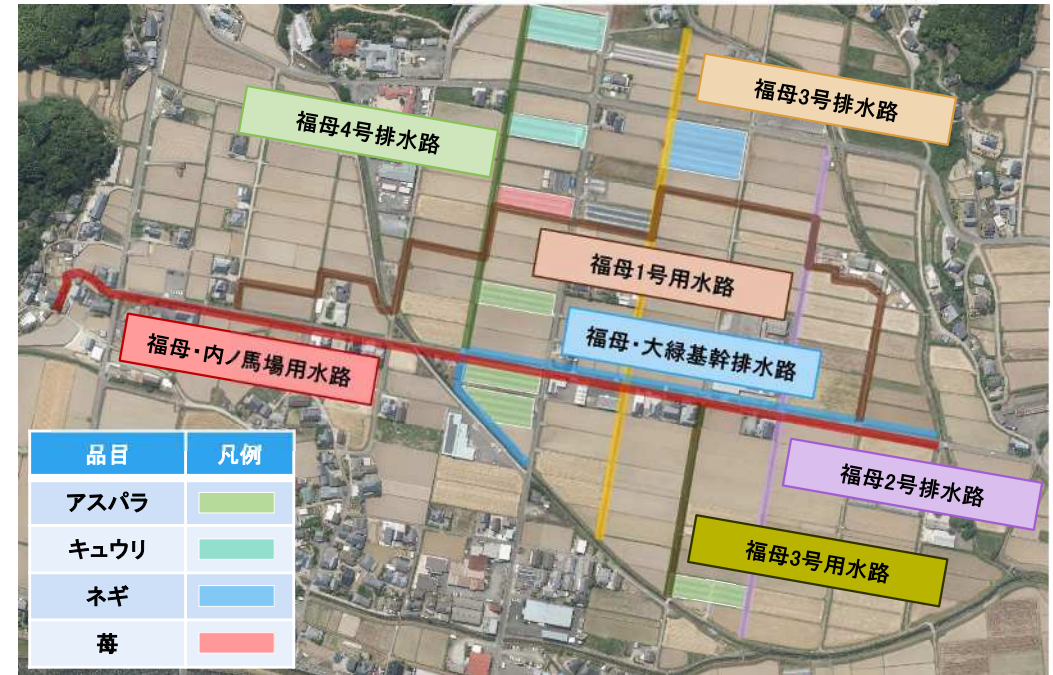


4-1. 事業効果(農村)

作付面積の変化

時点	H18現況	R4現況	増△減
作物名	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)
水稲	18.56	18.16	△0.40
大豆	9.28	9.08	△0.20
大麦(裏作)	0.00	9.13	9.13
アスパラ	0.71	0.91	0.20
キュウリ	0.68	0.68	0.00
ネギ	0.00	0.40	0.40
苺	0.19	0.19	0.00
合計	29.42	38.55	9.13

高収益作物の作付状況

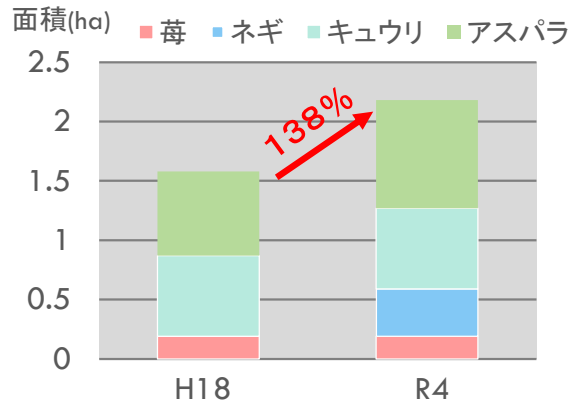


※福母・内ノ馬場地区での営農状況調べ



用排水路工の整備に伴い、用水の安定供給及び速やかな排水が図られたことで、裏作や高収益作物の作付けが増加した。

〔高収益作物の作付変化〕

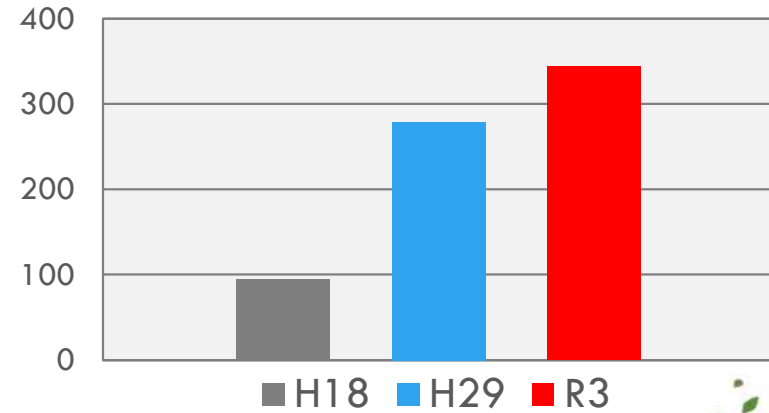


4-2. 事業効果(波及効果)

地域活性化の効果

	整備前 (H18)	整備後 (H29)	R3
棚田イベント等の 参加者(人)	94	279	344

棚田等イベント参加数



1000本のコキアを大学生と定植(令和5年5月)



コキア紅葉10月中旬~11月中旬の様子
市内外から多くの見物客で賑わう



今年も
・夏のイノピカプロジェクト
・秋のイノピカコンサート を開催



5. 地域住民の声

- 生産基盤の整備により、生産条件が改善され、高収益作物の作付面積が増えた。
- 水路の整備により、水路内に堆積する土砂が減り、浚渫などの維持管理労力が大幅に減少、のり面の維持管理負担も軽減された。
- 集落道路の整備により、農産物の荷痛みが減り、救急車両も集落内に乗り入れできるようになったことで、生活環境の安心安全度が大幅に向上した。



福母・内ノ馬場地区では、ネギの栽培が始まった



緊急車両の乗り入れイメージ



整形されたのり面での草刈状況

- 川内野棚田の知名度が向上、農産物の販売促進、交流イベント等を通じた地域の活性化が図られ、棚田を守る意識の醸成に繋がった。



佐大農学部 国際・地域マネジメントコースの学生参画で魅力的な地域づくりに発展中

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

- 事業名： 予防治山事業
- 路線名又は箇所名： 一本杉一
- 事業の概要
 - 工 期：平成25年度～平成28年度（4ヶ年）
 - 事業費：103,224 千円
 - 事業内容：治山ダム2個、流路工 L=102.3m

【公共事業の効果等】

- 治山ダムや流路工の施工により、不安定な土石の移動防止や溪岸侵食の防止が図られていることから事業の直接的効果が発現。
- 水源の涵養など、森林の持つ公益的機能の向上。
- 下流の人家や公共施設等の保全。

【事業実施前の状況等】

- 平成24年7月13～14日の梅雨前線による集中豪雨(最大時間雨量54mm、24時間連続雨量 104.5mm、総降雨量 257mm)により、区域内の複数の溪流において溪岸が侵食され、一部では山腹の崩壊も発生した。
- 被災後も、降雨時に山腹や溪岸の侵食が進行するとともに、集中豪雨により拡大崩壊や溪流内の不安定な土石が流れ出す恐れがあった。

【事業実施後の状況や県民の声など】

(事業実施後の状況)

- 治山ダムや流路工の設置により、不安定な土石の移動防止や溪岸侵食の防止が図られ、保全対象の安全確保に直接的な効果を発現している。
- 治山ダム周辺に植栽した事により、森林の再生が進み、多様な植物が林床に生育して生物環境が良くなっている。

(県民の声)

- 集落上流の荒廃溪流が治山事業により復旧整備され、安心して生活できるようになった。
- 治山ダムや流路工の設置により、溪流の溪岸侵食による濁水が防止され、水質の改善が図られており、環境が良くなった。

公共事業に係る効果等について

予 防 治 山 事 業

いっ ぽん すぎ いち

一 本 杉 一 地 区



(森林整備課)

事業概要

事業名 : 予防治山事業
地区名 : 一本杉一地区
所在地 : 嬉野市嬉野町大字下野 一本杉一 地内
工期 : 平成25年度～平成28年度(4ヶ年)
事業費 : 103,224千円(国50%、県50%)
事業内容: 治山ダム 2個、流路工102.3m、

《予防治山事業》

保安林区域において、荒廃危険溪流や危険山地の崩壊等の予防を図ることで、保安林機能(水源かん養、土砂流出防止)の維持造成を図るために実施



事業の背景・目的

○事業の背景(被災状況)

- ・平成24年7月13～14日の梅雨前線による集中豪雨(最大時間雨量54mm、24時間連続雨量104.5mm、総降雨量257mm)により、区域内の複数の溪流において溪岸が侵食された。
- ・その後も、降雨時に溪岸の侵食が進行するとともに、集中豪雨による溪流内の不安定な土石等の流出や山腹斜面の拡大崩壊が危惧された。

○事業の目的

- ・保安林区域において、荒廃危険溪流や危険山地の崩壊等の予防を図ることで、保安林機能(水源かん養、土砂流出防止)の維持造成を図るために実施する。

○保全対象

人家、市道、農地、河川

荒廃溪流及び荒廃地の状況 (H24当時)

【侵食を受けた溪流状況】



【溪流に流出・堆積した土石状況】



治山事業の目的（溪間工）

森林の維持造成を通じて、荒廃した溪流の安定化のための施設（治山ダムや流路工等）の設置や樹木の植栽（森林の再生）

災害発生(事例)



土石や流木の堆積

災害復旧
（災害の未然防止）



不安定な土石を固定し、溪流の侵食を防止する治山ダム

森林に復元するための植栽

表土の侵食を防ぐための緑化

乱流を防止し、溪流の侵食を防止する流路工

事業効果及び環境への影響（溪間工）

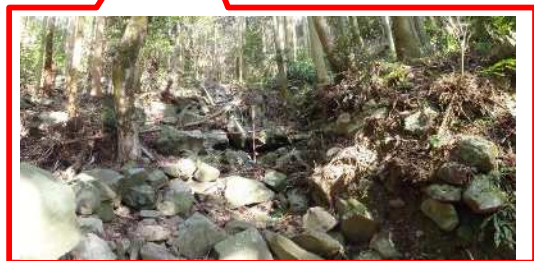
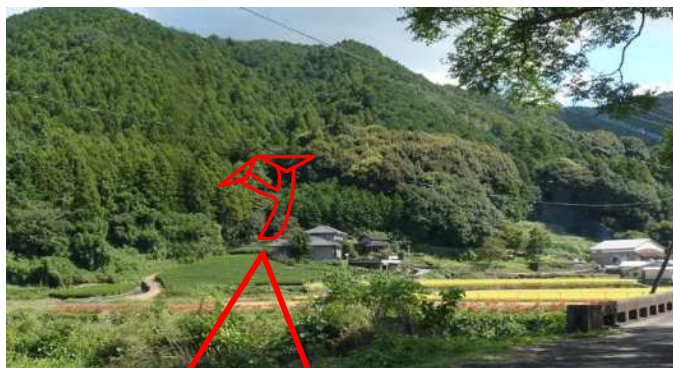
○事業効果

- ・ 治山ダムや流路工の施工により、不安定な土石の移動防止や溪岸侵食の防止が図られ、保全対象の安全確保に直接的な効果を発現している。

○環境への影響

- ・ 生活環境：溪岸侵食による濁水が防止され、水質が改善された。
- ・ 自然環境：治山ダム周辺に植栽工を施工したことにより、生物環境が良くなった。

整備前の状況
(平成24年)



整備直後状況
(平成28年)



治山ダム及び流路工

現況
(令和4年)



治山ダム周辺の緑化

整備効果（人家等の保全）

○近年の大規模降雨に対するデータ比較

嬉野観測所

	年度（豪雨災害）	降雨量（mm）		備考
		最大日雨量	最大時間雨量	
整備前	平成24年度（7月豪雨）	104.5	54.0	溪岸侵食
整備後	令和元年度（8月豪雨）	439.5	80.5	災害なし

○整備効果

治山ダム、流路工の完了後に、令和元年8月豪雨を経験したが、荒廃溪流や荒廃山地が復旧され森林の維持造成が図られたことにより、土石流や山腹崩壊等の災害の発生はなく、保全対象の安全確保に直接的な効果を発現している。

施設の維持管理

- 治山ダム等の構造物については、県により点検・補修等の適切な維持管理を実施している。
- 地元の嬉野市では豪雨時における現地調査、市主催の防災パトロール等を通じて適切な管理を行っている。

地域住民の意見等

- 集落上流の荒廃溪流が治山事業により復旧整備され、安心して生活できるようになった。
- 治山ダムや流路工の施工の設置により、溪流の溪岸侵食による濁水が防止され、吉田川へ流入する水質の改善が図られており、環境が良くなった。
- 治山ダム周辺に植栽した事により、森林の再生が進み、多様な植物が林床に生育して生物環境が良くなっている。

公共事業の効果等について

【事業名、地区名、事業概要】

- 事業名： 砂防施設等整備交付金（通常砂防）事業
- 地区名： 岩屋下川第二（いわやしたがわだいに）
- 事業の概要
 - 工 期： 平成 22 年～平成 27 年
 - 事業費： 340,500 千円
 - 事業内容： 砂防堰堤 1 基、 流路工 L=263m

【公共事業の効果等】

- 砂防堰堤の整備（完成）後、平成 30 年 7 月豪雨、令和元年佐賀豪雨、令和 3 年 8 月豪雨、令和 5 年 7 月豪雨等が発生した。当該溪流での土砂災害発生はなかったものの、砂防堰堤の整備により下流の人家保全が図られた。
- 直接的な事業効果に加え、地域社会の生活環境の向上に寄与するなど、同種、同類事業の模範となる箇所である。

【事業実施前の状況等】

- 本溪流は土石流危険溪流であり、溪流の荒廃が著しく風倒木も存在しているため、土砂災害発生時には土石流等が集落及び、周辺地域に大きな影響を与えることが懸念された。

【事業実施後の状況や県民の声など】

（事業実施後の状況）

- 砂防堰堤の整備により下流の人家保全が図られた。以前は溪流からの洪水が家屋付近水路から溢水していたが、流路工の整備により、洪水を安全に流下させることができ、直接的な事業効果発現に加えて、地域住民の生活環境向上が図られた。

（県民の声）

- 砂防施設が整備されたことで、安心して暮らせるようになった。

(様式4)

公共事業に係る効果等について

砂防事業 岩屋下川第二

(河川砂防課)

① 事業概要

● 事業の背景

本溪流は土石流危険溪流であり、溪流の荒廃が著しく風倒木も存在しているため、土砂災害発生時には土石流等が集落及び、周辺地域に**大きな影響を与えることが懸念**された。

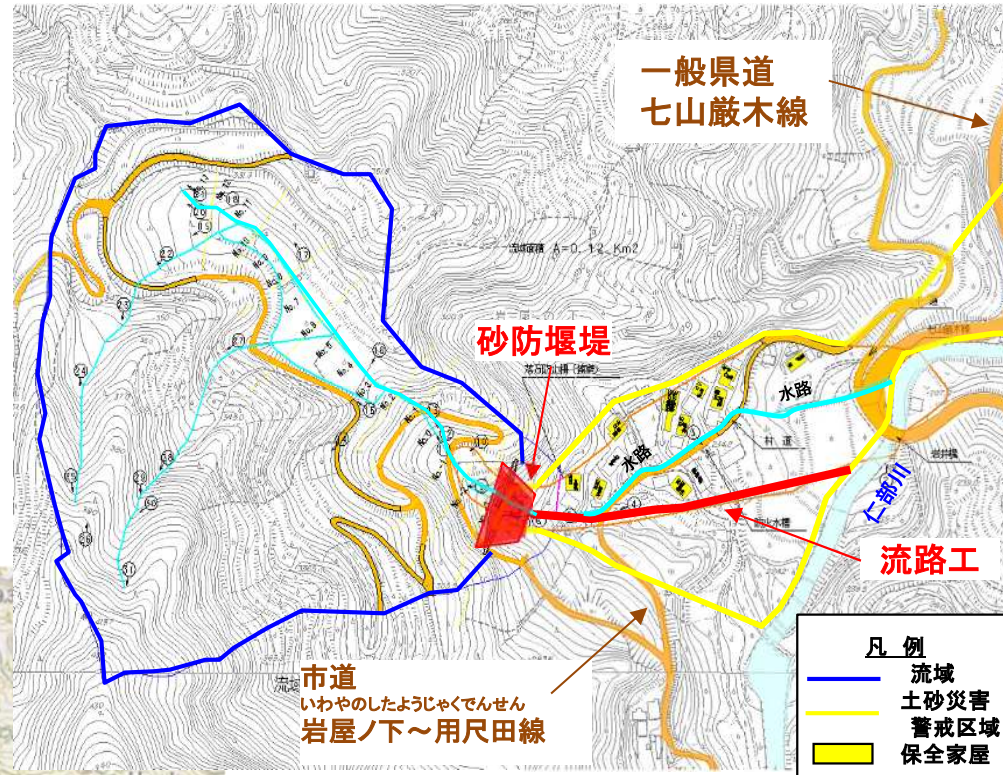


● 事業の目的

砂防堰堤を整備することにより、土石流等による**土砂災害から人命、財産を守る。**

- | | |
|--------|---------------------|
| ・事業名 | 砂防施設等整備交付金(通常砂防)事業 |
| ・地区名 | 岩屋下川第二(いわやしたがわだいに) |
| ・事業期間 | 平成22年度～平成27年度 |
| ・全体事業費 | C=340,500千円 |
| ・事業概要 | 砂防堰堤 1基、流路工 L=263m |
| ・保全対象 | 人家10戸、県道100m、市道260m |

② 事業位置



本溪流は唐津市七山に位置し、
保全区域内には、
人家10戸、一般県道七山巖木線、
市道(岩屋ノ下～用尺田線)がある。

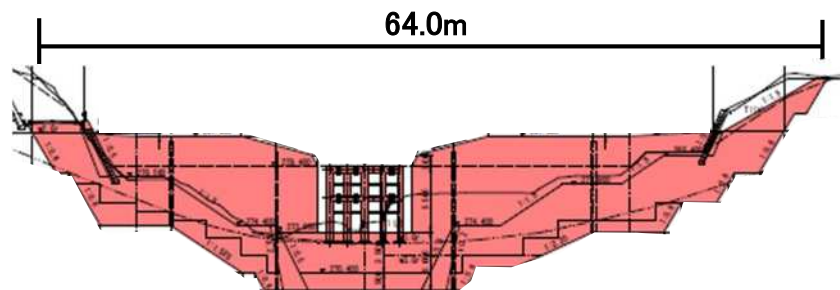
③ 溪流の荒廃状況

溪流の荒廃が著しく風倒木が存在しているため、土砂災害発生時には土石流等が集落及び、周辺地域に大きな影響を与えることが懸念された。

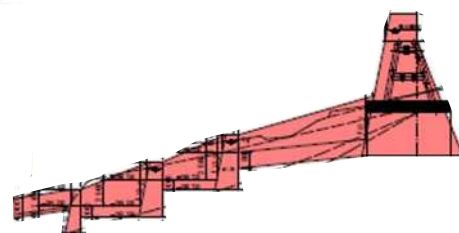


④ 整備計画

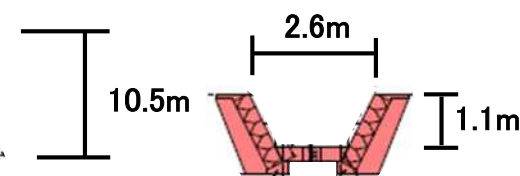
本堤工正面図



本堤工側面図



流路工横断面図



⑤ 整備効果

整備前

- ・土石流等が発生し、集落及び周辺地域に大きな影響を与える恐れ



整備後

- ・砂防堰堤により土石流等を捕捉
- ・流路工により洪水を安全に流下



⑥ 整備状況

整備前

砂防堰堤位置



砂防堰堤施工箇所
(実施前)

溪流状況



荒廃が著しい溪流

整備後

砂防堰堤 1基
流路工 L=263m



土石流等を補足する
砂防堰堤



洪水を安全に流下させる
流路工

⑦ 事業効果

近年、気候変動の影響により土砂災害が激甚化・頻発化



砂防堰堤を整備することにより、土石流等による土砂災害から人命、財産を守る。

砂防堰堤整備による土石流等の捕捉事例



⑧ 事業実施後の状況、県民の声

【事業実施後の状況】

- ・砂防堰堤の整備により下流の**人家保全が図られた。**
- ・以前は溪流からの洪水が家屋付近水路から溢水していたが、流路工の整備により、**洪水を安全に流下させることができ、直接的な事業効果発現に加えて、地域住民の生活環境向上が図られた。**

【県民の声】

- ・砂防施設が整備されたことで、**安心して暮らせるようになった。**